

第2回 武蔵野市生涯学習計画（仮称）策定委員会会議要録

日 時	平成 21 年 6 月 29 日（月） 午前 9 時 30 分から午後 4 時 45 分	
会 場 等	「武蔵野プレイス」建設予定地、武蔵野市民会館、高齢者総合センター、保健センター、 けやきコミュニティセンター、0123 はらっぱ、武蔵野地域自由大学交流センター	
出 席 者	委 員 (敬称略)	◎林 大樹、○倉持伸江、飛山堪子、富川昌美、萱場和裕 (◎委員長、○副委員長)
	事務局	生涯学習スポーツ課長 ほか
	傍聴者	2 名

【会議要録】

1 開会

2 市内施設見学

(1) 市内施設見学

- ・午前中の施設見学では、平成 23 年度開設予定の「武蔵野プレイス」建設予定地の確認、市民会館や高齢者総合センターを見学、午後は、けやきコミュニティセンター、0123 はらっぱ、自由大学交流センターを見学するとともに、各施設の担当者や運営管理者と意見交換を行った。

(2) 意見交換(保健センター講座室及び自由大学交流センター)

【委員長】 午前中見学した施設の感想など各委員からお願いしたい。

【飛山委員】 市民でありながら初めて見学した施設もあった。市民会館での活動や高齢者総合センターの取組などは、生涯学習の観点でみると、本質的には同じような活動をしていることを改めて痛感した。色々な活動があり、それぞれの対象者が違うことはあるが似ていることをしているように思う。

【委員長】 どこも一生懸命取り組んでいると感じた。それぞれに成果はあると思うが互いの交流がどこまであるのか。市民会館のアナログ的に確認できる施設予約スケジュールの工夫、高齢者総合センターの各講座のプランニングなど特性もあり、それぞれの場面で何らかの交流が図られるとよい。

【富川委員】 高齢者総合センターの場合、60 歳からが対象とのことだが実際には 72 歳から 73 歳が平均というお話だった。60 歳が高齢者と言われてもピンと来ない気もする。施設の名称や事業などネーミングの大切さもあると思う。また、市民会館の中に調理室や保育室など市民活動に必要なものが揃っており感心した。高齢者総合センターや 0123 などの施設はかえって対象者をセグメント化しているので運営が難しい気もする。

何も無いところからのプランニングよりもどう軌道修正しながら計画をつくっていくのがポイントになるではないか。

- 【萱場委員】確かに、同じような取組を色々なところが進めている傾向はあると思う。ただし、それらの取組が今の形になっていくまでには歴史的な経緯があることも事実である。例えば、生涯学習スポーツ課で行っている自由大学のよる大学聴講の仕組みは、元々高齢者施策としてスタートしたシルバー聴講生制度が移管されてきている。生涯学習であるとともに、高齢者の生きがいづくりや健康の維持などに重きをおいた考え方である。お互いを理解するとともに、協力して情報交換を行いながら進められるとよい。
- 【飛山委員】武蔵野市は、先進的に色々な取組を始めていたと思う。今は成熟期にあると思うが、武蔵野市にとっては、次のステップに行くための正念場なのではないか。
- 【富川委員】高齢者総合センターは、あれだけの講座の運営や企画のプランニングを4名で行っている。できるだけ色々な市民の声を聞くシステムがあるとよい。
- 【委員長】萱場委員の発言にもあったように歴史的経緯はあると思うが、再整理する必要も出てくると思う。今日も視察しながら教育プログラムのなかで有料か無料か、実費負担などの話も出ていた。教育プログラムのなかで対価を求めることもあると思うが、同時に、引きこもり防止や介護予防的なものは別の視点から考えることも必要になるかもしれない。個々のセンターや機関では判断しきれないものもあると思う。全体で考え方も含めてどのように生涯学習を支援していくかということだと思う。
- 【委員長】地域自由大学について質問や意見があればお願いしたい。
- 【飛山委員】地域自由大学は、大学の正規科目だけでなく寄付講座などもある。
- 【富川委員】受講料については、やはり自分たちでも利用者負担をすることも必要だと思う。同時に地域でお金が回るようになればと思っている。
- 【委員長】聴講料は武蔵野市内在住の場合、1科目3万円などの補助制度などが適用されているようである。
- 【飛山委員】市民の立場からすると、普通の学生と一緒に授業を受けることができるという利点がある。毎年2月頃に申し込んで抽選するが、市民のほうが多い講座になる場合もある。
- 【委員長】大学別の聴講料について、一律化などの状況はどうか。
- 【事務局】地域自由大学を設置するにあたり、一体化を図った。
- 【富川委員】三鷹市でもネットワーク大学という取組がある。近隣自治体との連携はどうか。
- 【事務局】三鷹市のネットワーク大学は、50以上の大学や研究機関等が一定の負担をし、関連ネットワークの中で周知や連携など取り組んでおり、地

域の5大学学長との懇談会から発展した武蔵野市の場合と経緯も違っている。

- 【委員長】 武蔵野市の寄付講座は、いくつあるのか。
- 【事務局】 現在、5つの大学と中近東文化センターで6講座開設している。
- 【委員長】 講座の調整などの窓口は、各大学の担当教員が行っているのか。
- 【事務局】 大学によって異なり、寄付講座専門の委員会を立ち上げ運営しているところもある。
- 【委員長】 本日の施設見学について再度確認する。午前の施設見学では「武蔵野プレイス」の予定地を確認した。市民会館は、定期的な施設利用団体が100団体ほどあり、継続的な活動をされている。施設の稼働率も約7割と高い。高齢者総合センターの社会活動に関する事業は、センター長1名、担当者3名で市民アンケートなどをしながら年間講座内容を決めており、市民ニーズの高い講座に重きをおくよう努められている。午後は、けやきコミュニティセンターを訪れ、活動の活発さ、市民の参加の度合なども非常に高いと感じた。少しではあるが若い世代の参加も見受けられ、全体の運営委員会のほかに協力委員という形で地域の多くの方々から行事などの際に協力を得ている。0123 はらっぱは、親子が一体となって過ごせる場として、「地域に子どもの群れを再生すること（子育て）」、「親どうしの交流を促進すること（親育ち）」を基本に様々な事業を進めている。
- 【副委員長】 0123 はらっぱは、活発な活動をしていると感じた。
- 【飛山委員】 はらっぱの仕組みは武蔵野市の保育園と同様に感じる。自然の中で育てるのは武蔵野市の特徴と思う。
- 【富川委員】 0123 はらっぱでも話したが、親支援と子どもの群れをつくっていくという二つの視点がある。親のネットワーク作りには地域のコミセンがつながってくれればと思う。
- 【飛山委員】 子供を介すると地域とつながりやすい。大人は構えてしまう。
- 【富川委員】 コミセンには子どものための「スペース」はあるが、面倒を見る大人をどうつくるかが課題だ。若いお母さんが来ると良いが、何かそういった施策はあるか。
- 【事務局】 たとえば保育課ではコミセンを活用して「赤ちゃんの広場」といった施策をしている。
- 【副委員長】 これまでのお話をうかがうと、武蔵野市では、事業の対象者や趣旨が若干異なりながらも各部署や施設で同じような事業を行っていることが分かる。それぞれの部署等でまたがっているものをどのように網掛けていくかは計画策定のうえで大事な視点だと思う。武蔵野市の特徴的な事業としてはどのようなことが挙げられるか。
- 【事務局】 現在、庁内で事業調査を行っている。例えば、今日見学した子どもや高齢者の施策には、対象者に外に出てもらうきっかけとなる施策

が多いと思う。

【副委員長】 個人単位の活動や個人の学習など、入口が個人で出口も個人、個人に還元して行く形の実組もあると思う。ただ、個人の生涯学習からどのように次への発展につながるかも大事な視点であり、次へのステップのための何らかの支援は必要だと思う。

【委員長】 施設管理面の仕組みも整理した情報があるとよい。

【富川委員】 計画のなかで、市がどこまで支援するのか、市民がどこまで担うのかが整理されると分かりやすい。施設運営に市民はどのように関わっているのか。

【事務局】 市民会館の場合、地域の方や利用団体の代表が集まって運営委員会会議を年6回行っている。武蔵野プレイスでも利用者参加の会議が予定されている。次回以降の策定委員会では、武蔵野プレイスに関する資料なども提出していきたい。

3 次回の日程及び会場

・日程について、以下を確認した。

第3回 7月13日（月）午後7時 自由大学交流センター

第4回 9月7日（月）午後7時 本町コミュニティセンター

・その他、社会教育委員との意見交換会が8月14日（金）午後7時から武蔵境のスイングビル10階で開催されることを確認した。

4 閉会